

家庭学習応援だより

第6号

教務部では外国語や算数の授業にTT(チームティーチング)で入ることがありますが、子供はできなかったことができるようになる、とても意欲的になります。こんなうれしい話があったので1つ紹介します。ある学年の児童が、「先生、昼休みにさっき算数の時間にやった計算問題やりたいです。」と授業後すぐに私のところにやってきました。早速、昼休みにその児童はニコニコしながらきました。20分ぐらい職員室で学習したでしょうか、「明日もやりたいです。」と行って戻っていきました。もちろん、その児童は次の日の昼休みにやってきましたよ。ほんのちょっとしたことがきっかけで、子供の学びに向かう姿が変わることを改めて実感した出来事でした。

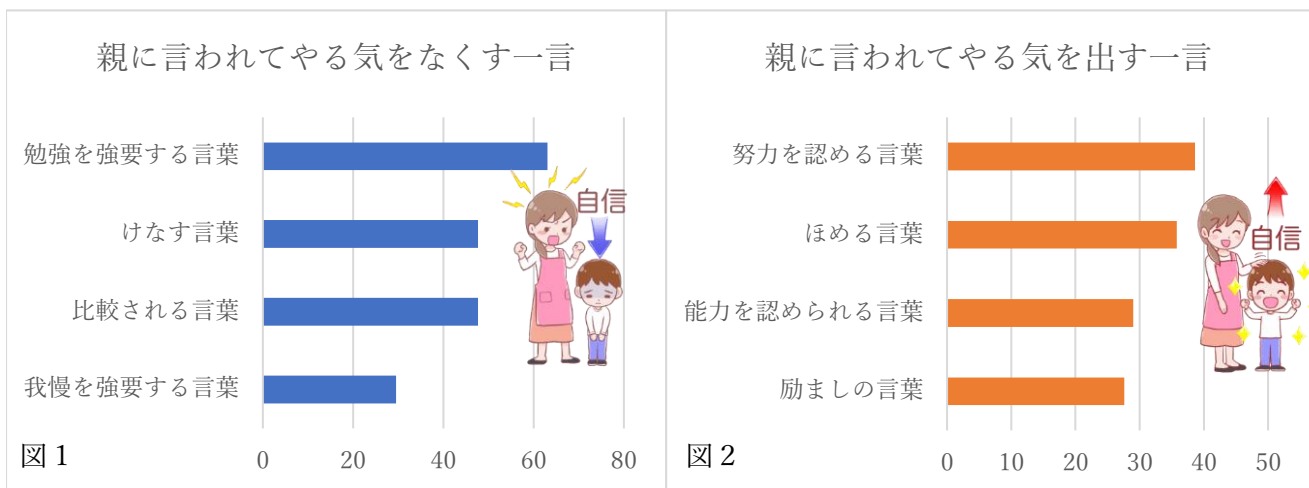
さて、先月から、本格的に学校が再開し、運動会やかぞくまつりを中心に、学校の話がたくさん出てきたと思います。子供自ら学校の話を進んでしてくれると、低学年のお子様をお持ちの親御さんはもちろんですが、高学年の親御さんもうれしく感じる時間だったのではないのでしょうか。そんな親子の会話が多くなってきた今だからこそ、先月号の「おわりに」で触れた「子供との距離感」や「親の言葉かけ」について、今号で、深掘りしてみたいと思います。また、アンケートで要望があった具体的な声かけなども紹介していきたいと思います。

子供が自信を持てる親の言葉



子供が自ら学習に取り組むようになるには、「自分はできるんだ」、「やってみたら意外にできた」という自信をもたせることが大事です。「なるほど!」と思うものがあったら今日から早速、実行してみてください。

ではなぜ、子供に自信をもたせることが大事なのでしょう。また、効果的なのは、どんなことでしょうか。



ある調査によると上図のように、子供への親の言葉が大きな影響力を持っていることがわかります。

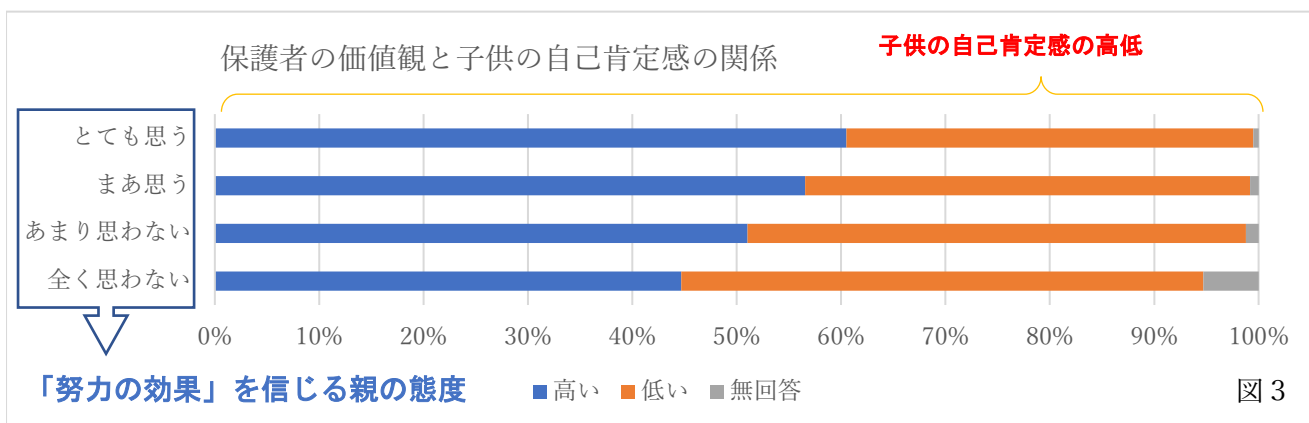


図3

子供にかける言葉次第でこんなにも差が

おもて面の図1、2を見ると、子供への親の言葉が大きな影響力を持っていることがわかります。気軽に口にした言葉が、もしかしたら子供の言動や性格にまで影響を与えているかも、と考えるといかに大切かがお分かりでしょう。言い換えると、親の言葉は良い方向に働けば、まさに「魔法のことば」になるのです。

また、図3のように保護者が「努力の効果」を信じていればいるほど、子供の自己肯定感が高いことがわかります。子供は親のフィルターを通して社会を見ています。親の価値観や考え方も、直接ではないにしても、影響があるようです。小学生のうちから「頑張っても、どうせ…。」とか、「努力しても無駄。」などと思わせてはいけません。

そして、自己肯定感や自信は、子供の行動や性格など、人格の形成に大きく作用します。「自分は今のままで大丈夫。」という確信を持つには、身近な人から褒められ、認められる経験の積み重ねが必要です。

本校児童の自己肯定感は、はっきり言って「低い」です。先日全国学力学習状況調査の結果を見ても、全国の平均よりも20ポイント以上差があります。全国の平均は80%いかないくらいです。親の言葉は、子供の心をグングン成長させる大切な栄養です。ぜひ、図2のような言葉をかけてあげてください。



こんなときには こう使おう

家庭学習になかなか取りかからないとき

- 家庭学習も歯磨きや洗顔と同じようにとらえさせてみては。まずは一緒に取り組み、「毎日するものだ」ということを伝えます。最初は内容を気にしすぎず、「やった」という気持ちにさせるのが大事です。「毎日やらないと、なんだか気持ち悪いね。」

家庭学習に集中できないとき

- 自分の子供の集中がどれくらい持続するかをあらかじめ把握しておき、その長さに応じた学習を続けてはどうでしょう。学習の初めにパズルゲームを取り入れ、集中力を高めるトレーニングをしてもよいです。「今日は集中できないかな？2分だけやってみようよ。」←なぜ2分かという、これにはちゃんと意味があります。2ミニッツ・スターターという技法です。

問題を間違えていたとき

- 「できないところ＝弱点」であり、克服すればレベルアップできるものです。勉強を、自分の弱点見つけ、クリアしていくゲームの感覚で前向きに取り組ませたいですね。「ここが弱点だね。見つけてよかったね。」

問題を解くのに時間がかかるとき

- 今はできなくても、ある時期にぐんと伸びることはよくあります。子供が途中であきらめたり、意欲を失ったりしないようにその子のペースに合わせましょう。「今は早くできなくても、そのうちできるようになるから大丈夫よ。」

問題を解いて答え合わせをするとき

- わからなかったことを責めず、「わからなかったんだね。」とありのままを受け止めると、子供は安心します。そのうえで、一緒に解答を確認しましょう。「どこがわからなかったかを一緒に見てみようか。」

子供に勉強をさせようとするとき

- 大人の都合やペースに子供を合わせるのではなく、子供の世界に大人が興味や関心を持つと、子供は話を聞くようになります。「大谷選手の『選手』って漢字でどう書くんだった？」

子供がよい点を取ってきたとき

- 子供に自信をもたせる基本は、できたところをいち早く発見して褒めることです。できないことを指摘するよりも、できたことを認めましょう。「前よりも計算ができるようになってるね。」

子供が悪い点数をとってきたとき

- 結果を責めても何も解決しません。それより何がいけなかったのかを穏やかに聞いてみて、「どう思う？」と、子供の感想や意見を引き出してみても。「今回の点数は思っていたよりもいい？悪い？」「何でそう思ったの？」

おわりに

運動会、かぞくまつりと行事が立て続けにありましたが、家庭学習のペースは乱れてはいないでしょうか。2学期後半は、その学年の学習内容が難しくなり始める時期です。「1学期は全く問題なかったのに、気が付いたら…」とならないよう、いつもよりお子様の学習への取組や様子を気にかけてあげてください。